

福岡インターナショナルトレーニングセンター 基本計画

令和8年6月



目次

1 基本計画の趣旨・位置づけ -----	1p
(1) 趣旨	
(2) 上位計画・関連計画	
2 既存施設の現状と課題 -----	2p
(1) 施設概要	
(2) 施設構成	
(3) 施設の利用者区分	
3 福岡インターナショナルトレーニングセンターの方向性 -----	5p
(1) 基本構想の方針と基本計画のコンセプトとの関係	
(2) 基本計画のコンセプト	
(3) 福岡 ITC に必要な機能	
(4) 想定種目	
(5) バリアフリー化の方針	
4 改修計画 -----	7p
(1) 改修項目	
(2) 必要諸室一覧	
(3) エリア別計画	
(4) 関係法令	
5 整備スケジュール -----	11p
(1) 事業工程表	
(2) 概略工事工程表	
6 概略工事費 -----	11p

1 基本計画の趣旨・位置づけ

(1) 趣旨

国際社会と国内社会は大きな転換期にあり、気候変動や国際情勢の変化など、グローバルな課題が山積している。

このような時代において、“福岡県のスポーツをより元気に、スポーツの力で福岡県をより元気に”という理念を掲げ「スポーツ立県福岡」を目指す本県がリーダーシップを発揮することは、県民の豊かな営みを支えるとともに、持続可能な国際及び地域社会の発展に、重要な役割を果たすことにつながる。そのためには、国籍、人種などにとらわれることなく、将来を見据え互いに尊重し、互いの課題解決のために共に歩んで行くことができる人材の育成を通じた人的資本（付加価値を生み出す個人に備わった知識・技能・能力）の形成が重要である。

このたび、「県内アスリート*が海外アスリートと国を超えて共に活動できる人材育成の場」を創出することを目的に、福岡県立スポーツ科学情報センター（通称「アクション福岡」以下「アクション福岡」）を改修し、令和10年度を目標に国内最高峰の国際トレーニングセンター（以下、「福岡ITC」）として開設することとしている。

本計画は、そのために必要な、改修後の施設の在り方や機能、改修工事の基本的な考え方をまとめたものである。

※本計画書内のアスリートとは競技成績向上を目的とする人を指し、ジュニアアスリートや学校、スポーツ団体も含む。

(2) 上位計画・関連計画

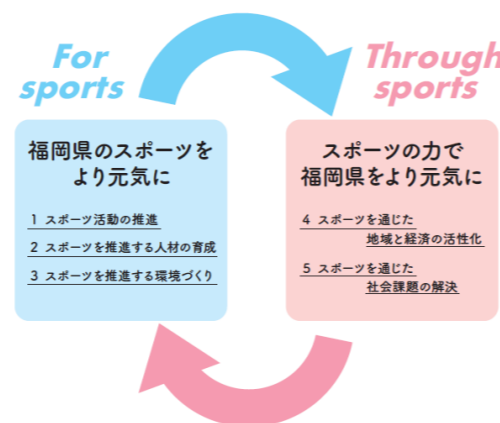
本計画は、令和7年度に策定された福岡国際トレーニングセンター基本構想を受けて策定するものであり、基本構想は福岡県スポーツ推進計画に基づいたものである。以下、概要を示す。



① 福岡県スポーツ推進計画

“福岡県のスポーツをより元気に、スポーツの力で福岡県をより元気に”という「スポーツ立県福岡」の実現を目指す。

主な施策として、子どもから高齢者、障がいのある人まで誰もが生涯にわたりスポーツに親しめる環境づくりの整備のほか、競技力向上のためのアスリートや指導者の育成・強化、スポーツ施設の整備・活用、デジタル技術（DX）の活用を推進する。また、大規模スポーツ大会の開催やスポーツツーリズムを通じて地域経済の活性化や国際交流の促進を図ることを目指している。



福岡県スポーツ推進計画より抜粋

② 福岡国際トレーニングセンター基本構想

検討の背景

- 世界の課題：気候変動に伴う温暖化、国際情勢の不安定化等
 - 国内の課題：ライフスタイルの多様化、学校と地域における学びの連携等
- グローバルな課題を解決するためには、国籍、人種などにとらわれることなく、将来を見据え互いを尊重できる人材の育成が重要である。
- 福岡県のスポーツ動向：アジア・オセアニア諸国・地域とのゲートウェイとして、外国人留学生の受け入れ、各競技団体との覚書の締結など様々なスポーツ分野での交流を図ってきた。また、タレント発掘事業の修了生がオリンピックで活躍するなどの成果を出している。本事業をパラスポーツ分野に広げた「フクオカ・パラスター・プロジェクト」も開始されている。

福岡ITCの意義

- 「県内アスリートが海外アスリートと国を超えて共に活動できる人材育成の場」を創出することは、社会の発展や社会課題の解決に貢献することができる人的資本の形成につながる。
- 福岡ITCの設置はアスリートがスポーツを通じて現在及び将来の持続可能な社会の発展及び活性化に貢献できる人的資本と社会関連資本を育む拠点となることを目的としている。

福岡ITCの目指すべき方向性

- アジア・オセアニア諸国・地域をはじめ国内外のアスリート等及びその関係者等が集まり共に切磋琢磨していく拠点となる。
- 生涯を通じて県民がスポーツとより良く関わるウェルビーイングに資する県民の生涯スポーツの振興の拠点となる。
- 学校、スポーツ団体及びスポーツ、文化芸術その他の分野の民間その他関係者らと相互に連携を図り、社会課題の解決に貢献できるスポーツの推進に寄与する人材育成や情報等の拠点となる。

今後の展開

- 福岡ITCの機能整備
- サテライト施設（県有スポーツ施設）の機能強化
- 新部署の設置、連携、協働
- 専門職員の配置

2 既存施設の現状と課題

(1) 施設概要

アクション福岡は、福岡空港の東側に位置し、福岡市営公園や各種競技施設が集積するエリアにある。

既存施設は、福岡県における体育・スポーツ振興の中核的な役割を担うことを目的として1995年に整備された。以来、国内外のトップアスリートをはじめ、ジュニアアスリート、学校、スポーツ団体、県民などに広く利用されており、大会開催や合宿、トレーニングの拠点として重要な役割を果たしている。



付近見取り図 地図データ出典：©2026Google



配置図 地図データ出典：©2026Google

既存施設概要

施設名称	アクション福岡	
所在地	福岡県福岡市博多区東平尾公園2-1-4	
竣工年度	平成7年度(1995年)	
構造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造	
階数	地上4階、地下1階	
最高高さ(m)	34.20	
敷地面積(m ²)	30,898.83	
建築面積(m ²)	8,672.41	
延床面積(m ²)	22,685.00	
	階	主な用途
	4F	観客席
	3F	宿泊室等
	2F	メインアリーナ、研修室等
	1F	エントランスホール、事務室等
	B1F	駐車場、機械室等

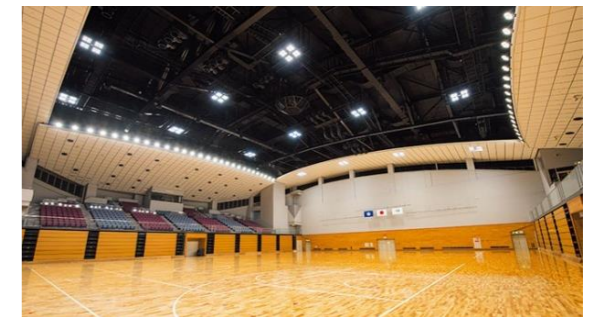
アリーナ概要

メインアリーナ	1,794 m ² (46m×39m) バスケットボール(2面)、バレーボール(2面)、バドミントン(10面)など
サブアリーナ	884 m ² (34m×26m) バスケットボール(1面)、バレーボール(2面)、バドミントン(4面)など
多目的アリーナ	390 m ² (各26m×15m) 柔道(4面)、剣道(4面)など



外観写真

出典：「ふくおかスポネット」HPより



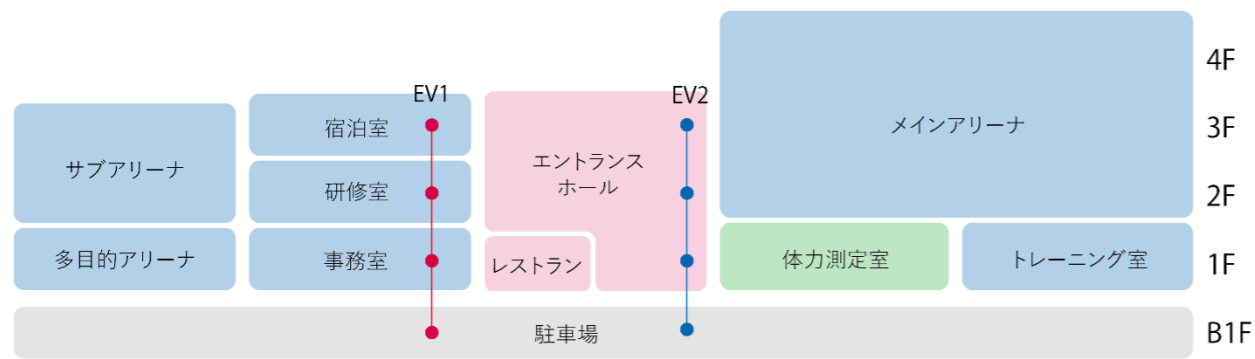
メインアリーナ内観写真

出典：「岩崎電気株式会社」HPより

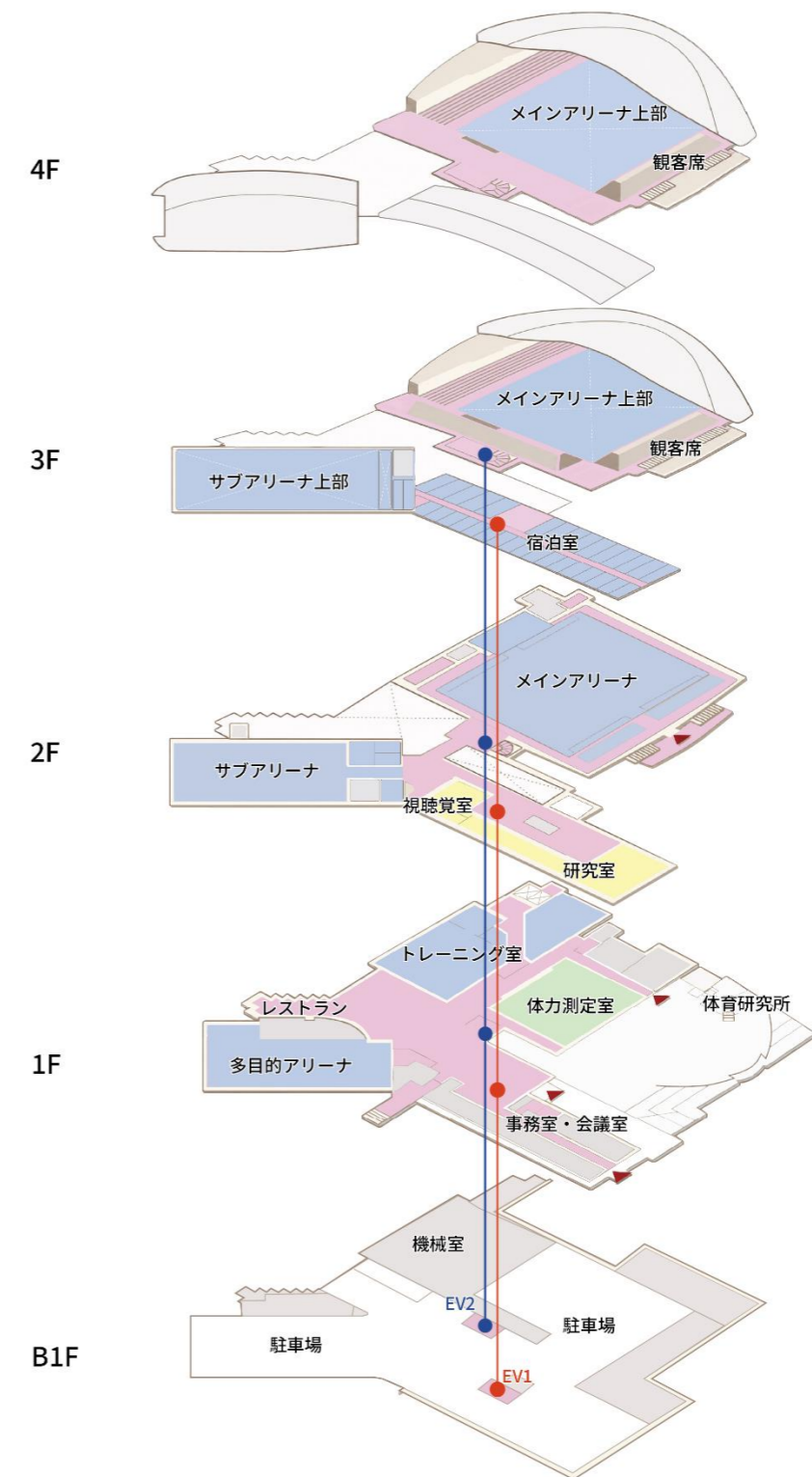
(2) 施設構成

アクション福岡は1階にトレーニング室、体力測定室、レストラン、多目的アリーナ等、2階にメインアリーナ、サブアリーナ、研究室等、3階に宿泊室が配置されている。

地下1階には駐車場があり、駐車場から宿泊室があるフロアにつながるEV1（2基）と、駐車場からメインアリーナにつながるEV2（1基）が設置されている。



断面構成イメージ



施設構成イメージ

(3) 施設の利用者区分

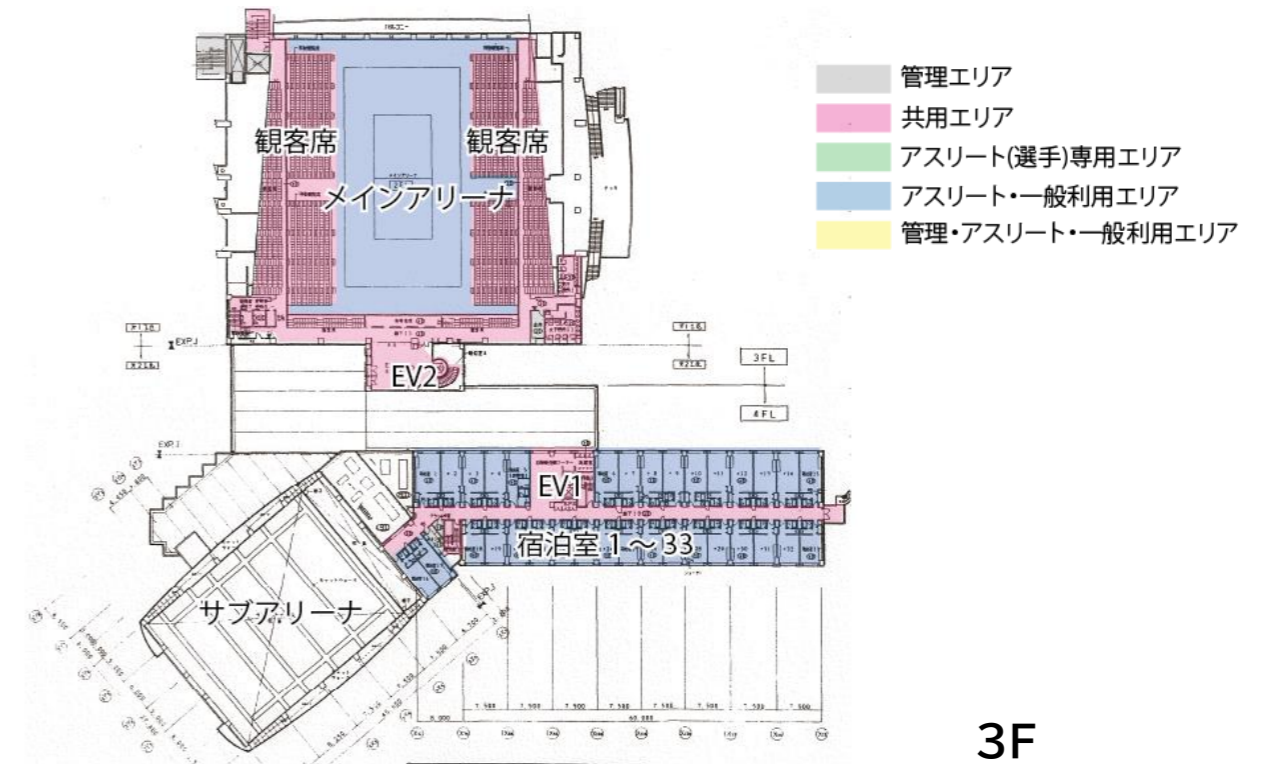
体力測定室及びその周辺諸室は、月数回程度実施される予約制の一般利用時を除き、アスリート専用エリアとなっている。

その他のエリアは、アスリート専用ではなく、宿泊者や予約状況に応じて各団体がアリーナ等を利用する運用となっている。

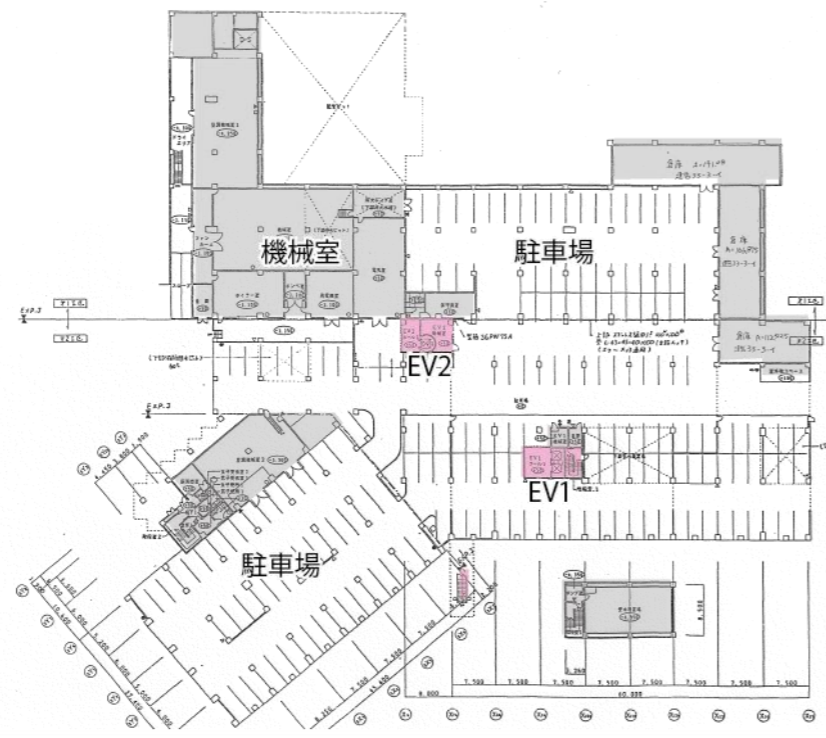
また、エントランスホールやEV、階段などの共用部は、アスリートも一般利用でも利用できる。なお、トレーニング室については、大会開催時も含めて常時一般利用が可能となっている。



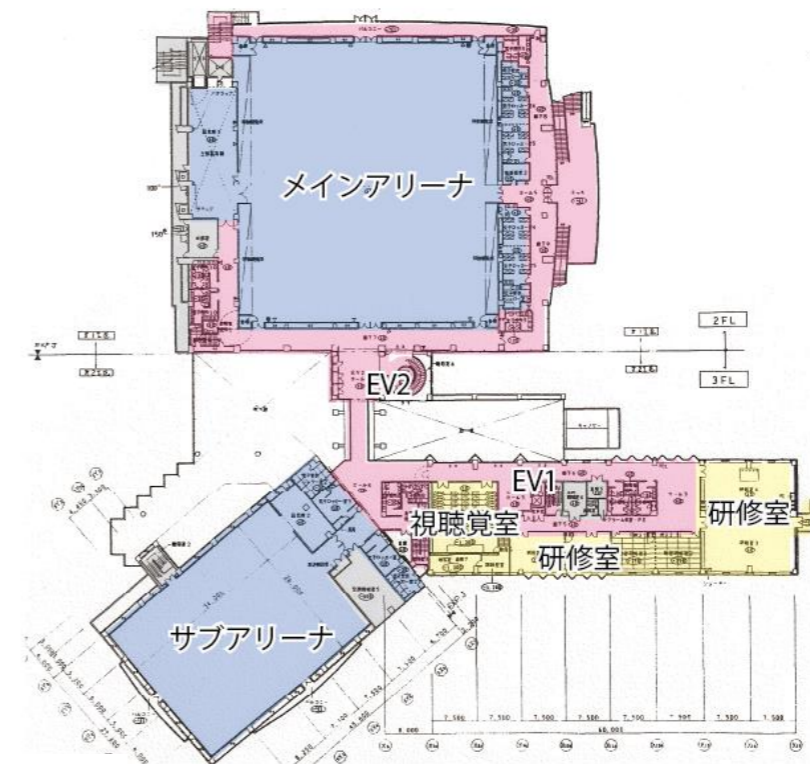
1F



3F



B1F



2F

施設の利用者区分

3 福岡インターナショナルトレーニングセンターの方向性


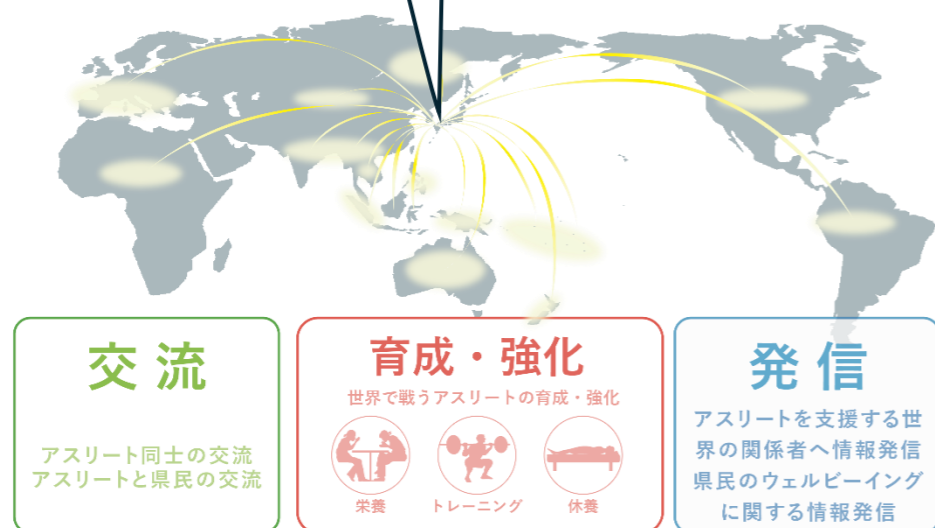
(1) 基本構想の方針と基本計画のコンセプトとの関係

基本構想における福岡 ITC の目指すべき方向性	基本計画のキーワード
①アジア・オセアニア諸国・地域をはじめ国内外のアスリート等及びその関係者等が集まり共に切磋琢磨していく拠点となる。	⇒ 育成・強化・交流
②生涯を通じて県民がスポーツとより良く関わるウェルビーイングに資する県民の生涯スポーツの振興の拠点となる。	⇒ 交流・発信
③学校、スポーツ団体及びスポーツ、文化芸術その他の分野の民間その他関係者らと相互に連携を図り、社会課題の解決に貢献できるスポーツの推進に寄与する人材育成や情報等の拠点となる。	⇒ 育成・強化・発信

(2) 基本計画のコンセプト

改修のコンセプト

国内最高峰のインターナショナルトレーニングセンター
 -福岡から世界へ、
 世界から選ばれる福岡へ-

県民が、プログラム・機能を体験、アスリートを感じる、アスリートを応援

県民のウェルビーイング向上

福岡 ITC 整備のための3つのキーワード

アジア・オセアニア諸国・地域など国内外の地域におけるトップアスリート及び「する人」「見る人」「支える人」などの関係人材等のスポーツの推進に寄与する人材育成の拠点として、以下の3つの視点で整備を行う。

✓ 「育成・強化」

国内外の競技力強化に向け、国内最高水準の「トレーニング」「栄養」「休養」を提供する。

✓ 「交流」

諸外国選手・ジュニアアスリート・パラアスリートなどとのスポーツを通じた交流ができる環境を整備する。また、県民がトップアスリートと同様の体験を行ったり、その練習を間近で見学したりできる仕掛けをつくる。

✓ 「発信」

アスリートに関する研究成果の共有に加え、健康促進・生涯スポーツ・地域経済の活性化など、スポーツを起点とした多様な情報を、県内はもとより国内外へ発信する拠点とする。

- これらによって国籍、年齢、身体的特性に関わらず、世界で戦うアスリートが集い、純粋にパフォーマンス向上に向き合い、能力を最大化できる環境を構築する。
- 県民は、集うアスリートと福岡 ITC で行われるトレーニング、プログラム、機能を見て、体験して、感じて、幸福感、満足感、充実感、生きがい、心の健康を得る。



アスリートコアのイメージ

(3) 福岡 ITC に必要な機能

トップアスリート育成・強化の拠点として各機能を強化するとともに、アジア・オセアニア諸国・地域を中心とした海外アスリートの受け入れ、交流に対応した機能拡充を行う。



(4) 想定種目

福岡 ITC は合宿を含むトレーニング（知識学習含む）、栄養、休養を実施する施設であることから想定種目は設定しない。

ただし、福岡 ITC の屋内施設で実施可能^{*}なこと、これまでの国際強化合宿等の実績により以下の種目を想定する。なお、既存施設にこれから導入する機器で対応可能な種目は受け入れる。

※ アリーナ等のフロアにコートラインがあり、器具の持ち込みで対応可能な種目

主な想定種目

オリンピック競技	バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、バドミントン、フェンシング、ウェイトリフティング等
パラリンピック競技	バドミントン、ボッチャ、ゴールボール、車いすバスケットボール等

(5) バリアフリー化の方針

- 既存施設は地上駐車場からエントランスホールまでの移動経路には階段がなく、車椅子利用者は地下駐車場から EV でアクセスしている。
- 車椅子利用者が正面からエントランスホールへアプローチできるように、正面階段部分及び施設北側にスロープを新設する。
- 宿泊室についても、既存のバリアフリー宿泊室 1 室に加えて、新たに 4 室をバリアフリー宿泊室とする。
- パラスポーツの選手のアスリート専用エリアの利用に配慮し、バリアフリーに対応した更衣室を設ける。
- 改修部分は福岡市福祉のまちづくり条例に適合させる。既存部分は福岡市福祉のまちづくり条例に適合しているか確認の上、不適合の部分をどこまで改修対象とするかを発注者と協議する。

4 改修計画

(1) 改修項目

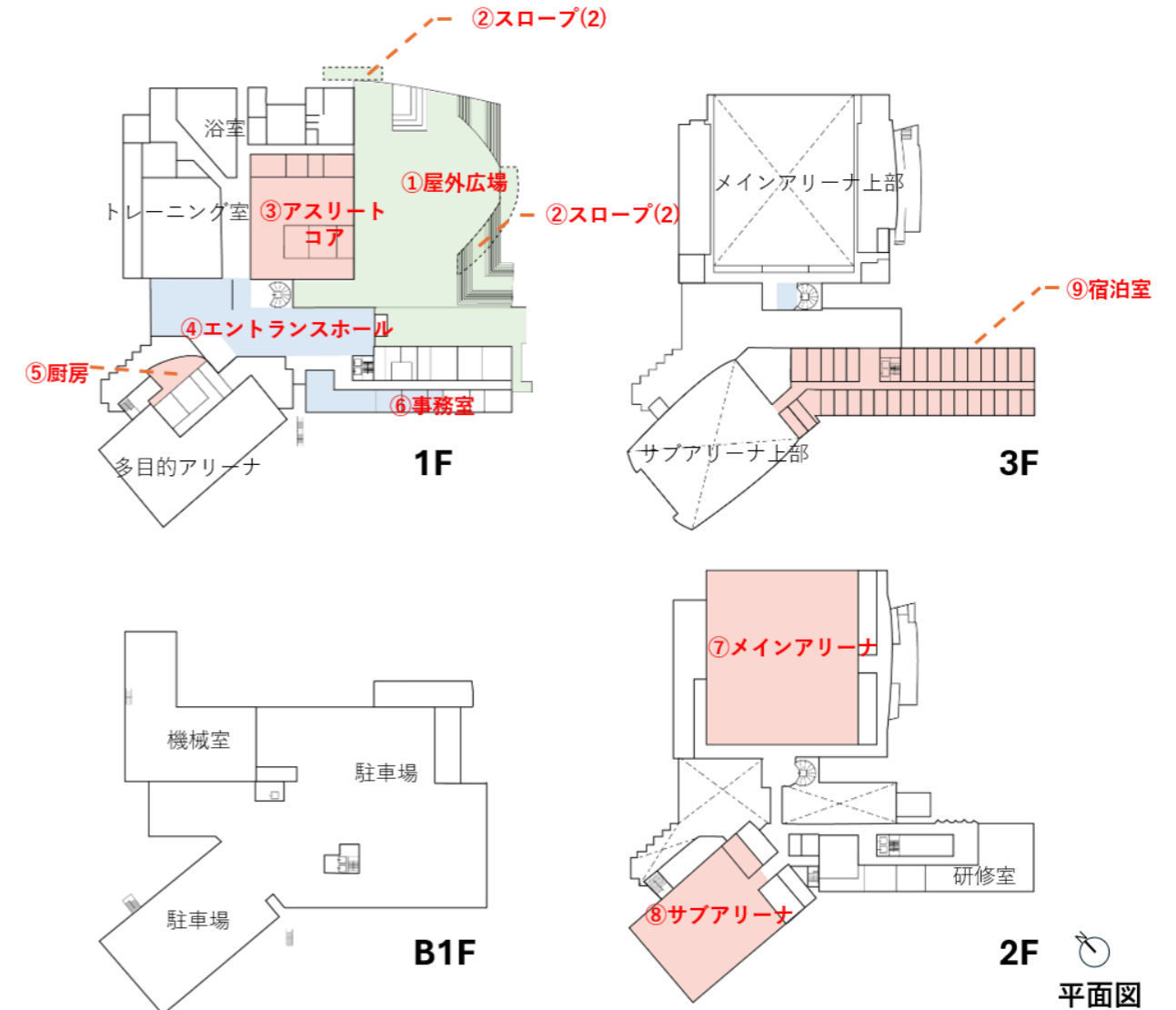
建築工事、機械設備工事、電気設備工事の改修概要は下記のとおりとする。

改修No	改修エリア	建築工事改修概要	育成・強化 交流 発信		
			機械工事改修概要	電気設備改修概要	
外部	① 屋外広場	外部階段を含めた防水・タイルの改修 手摺の更新・新設 照明ポールの撤去 階段廻りの壁の改修（掲示物デザイン含む） 館名サインの設置等	該当工事なし	照明の設置又は改修 照明ポールの撤去（照明部分）	
	② スロープ	屋外スロープ（1）の設置 屋外スロープ（2）と屋根の設置	該当工事なし	照明の設置	
1F ※2	③ アスリートコア （旧体力測定室）	間仕切の変更（ワンルーム化） 外壁に搬入口の設置 床仕上・下地の改修 出入口の設置、受付位置の変更 専用トイレ・シャワー・更衣室・交代浴等の設置	セントラル方式から個別空調への変更 交代浴用過機の設置（温水・冷水） 建築工事に伴う衛生設備・換気設備等の設置	建築工事及び機械工事に伴う電気設備の改修 ※1	
	④ エントランスホール	環境制御室の設置	環境制御室までの設備配管・ダクト等の設置	建築工事及び機械工事に伴う電気設備の改修 ※1	
	⑤ 厨房	アスリートラウンジの床改修 掲示空間の改修 列柱の撤去 エキスパンションジョイント金物の改修 EVホールの天井雨染みの修繕	アスリートラウンジを個別空調へ変更	大型ビジョンの設置 建築工事及び機械工事に伴う電気設備の改修 ※1	
	⑥ 事務室	厨房のレイアウト変更及び厨房機器の改修 オープンカウンター化	設備配管および空調設備・換気設備等の改修	建築工事及び機械工事に伴う電気設備の改修 ※1	
2F ※2	⑦ メインアリーナ	事務室の拡張 OAフロア化 入口にスロープの設置	空調室内機・ダクト等の撤去又は移設	建築工事及び機械工事に伴う電気設備の改修 ※1	
	⑧ サブアリーナ	常設スクリーンの設置（2枚） 電動間仕切の設置	空調室内機等の撤去又は改修 （電動間仕切り設置に伴う支障がある場合）	測定カメラ・プロジェクターの設置 建築工事及び機械工事に伴う電気設備の改修 ※1	
3F ※2	⑨ 宿泊室	常設スクリーンの設置（1枚） 床の改修 サブアリーナ出入口の天井雨染みの修繕	該当工事なし	測定カメラ・プロジェクターの設置 音響設備の改修 建築工事及び機械工事に伴う電気設備の改修 ※1	
	⑩ サイン	バリアフリー客室の改修（US含む） 一般客室の改修（US含む） 宿直室の改修（US含む） 全室遮音化	空調室内機・換気機器・ダクト等の移設又は改修 セントラル方式から個別給湯への変更 バリアフリー客室は個別空調に変更	建築工事及び機械工事に伴う電気設備の改修 ※1	
共通	⑪ Wi-Fi	サインの多言語化	該当工事なし	該当工事なし	
		該当工事なし	該当工事なし	Wi-Fi設備の整備 ※3	

※1 電灯設備・受変電設備・動力設備・構内交換設備・拡声設備・誘導支援設備・テレビ共同受信設備・自動火災報知設備・情報表示設備等のうちの必要となる部分の改修

※2 天井雨染みの箇所を調査の上、修繕を行う

※3 営繕設備課発注工事の対象外



(2) 必要諸室一覧

面積はおおよその目安を記載

改修エリア	室名	面積(m ²)	備考
1F	アスリートコア(旧測定室)	975	廊下等含む
	パフォーマンスゾーン	685	
	アスリート専用トレーニングエリア	175	パワーラック、ダンベルベンチ等
	測定エリア	470	(現在使用している機材関係) 身長体重脂肪計、体制分析装置、血圧計、肺活量計、心電図検査機、スープリュームビジョン、骨密度測定器、全身持久力測定器、個人全身持久力測定器、ステップング測定器、無酸素パワー測定器、短関節筋力測定器、フォースプレート、垂直跳び測定器、圧力測定器、背筋力測定器、全身反応速度測定器、四方位反応速度測定器、反復横跳び測定器、R D J 測定器 (新しく導入予定) フォースプレート、トレッドミル、モーションキャプチャ、ハンドエルゴメーター、三次元人体計測システム、ウエイトリフティング等を設置
	環境制御室	40	機械室含む
	サポートオフィスゾーン	43	
	映像分析室	8	測定したデータや映像の閲覧を行うPC台、データ保管用の収納棚を設置
	医務室	10	医療従事者の事務作業を行う机椅子、要介護者が使うベッド1台を設置
	スタッフ室	10	椅子、ロッカー
	ミーティングルーム	15	
	面談室	8	
	コンディショニングゾーン	157	
	コンディショニングエリア	75	マット適宜、マッサージベッド適宜、テーブル適宜、その他アスリートのコンディショニング維持のための機器を設置
	シャワー室	12	シャワーユニット約3m ² ×4
	脱衣室	10	個室約2.5m ² ×4室
	ロッカー	13	6.5m ² ×2
	WC	4	2m ² ×2
	交代浴コーナー	30	温水槽1、冷水槽1
	濾過室	6	交代浴の循環浄化用
	車椅子更衣室	7	
	その他	30	
	倉庫スペース	30	測定エリア内の一角に可動間仕切り等で仕切り利用
	エントランスホール	270	
	アスリートラウンジ	270	
	ホール	-	大型ビジョン ※ 機器等設置及び、照明塔撤去に関わる補修等
	レストラン	110	
	厨房	110	栄養評価システム
	事務室	278	
	事務室	250	事務室・所長室・役員室の3室を一室にして事務室化
	センター長室	28	旧講師控室・応接室

面積はおおよその目安を記載

改修エリア	室名	面積(m ²)	備考
2F	メインアリーナ	7	
		-	スクリーン設置(2箇所)、測定カメラの設置(4箇所+天井) ※ 機器等の設置のみ
	映像分析室	7	測定したデータや映像の閲覧を行うPC台、データ保管用の収納棚を設置
	サブアリーナ	945	
		930	スクリーン設置(1箇所)、床の張り替え、測定カメラの設置(天井)
	映像分析室	15	測定したデータや映像の閲覧を行うPC台、データ保管用の収納棚を設置
4F	宿泊室	1,245	
	バリアフリー対応宿泊室	180	5室
	シャワー別室宿泊室	850	28室(うち1室は宿直室兼用)
	廊下・EVホール	215	スロープの設置、タイルカーペットの更新
屋外	屋外広場	2,730	
合計		6,560	

(3) エリア別計画

① 屋外広場

・屋外広場の整備

本施設を象徴するような館名サインもしくはモニュメントを設置する。

・外部階段周辺：ウェルカム・情報発信壁面のデザイン

外部階段まわりの壁面を活用し、施設のシンボル性や情報発信力を高める掲示物・壁面のデザインとする。

・外部動線の安全対策

外部照明ポール(水銀灯)を撤去する。

外部階段のすべり止め対策(防水・タイルの改修)を行う。

正面中央階段付近のスチール製手すりを撤去、新設する。

② スロープ

・ エントランスホールへのアプローチ動線

地下駐車場以外からのエントランスホールへのアプローチ動線について、車椅子利用者や足腰の不自由なアスリート及び来館者が、安全かつスムーズにアクセスできるバリアフリー動線を整備する。具体的には、正面中央階段付近及び体育研究所横エリアに各々スロープを設置する。体育研究所横のスロープは屋根を設置する等して、雨天時でも自動車が寄り付き、安全に移動できるものとする。

③ アスリートコア（旧体力測定室）

・ 体力測定室の拡張・改修

体力測定室のエリアを拡張する。また、ホール側の壁面をガラス張りとし、外壁面に搬入口を設ける。

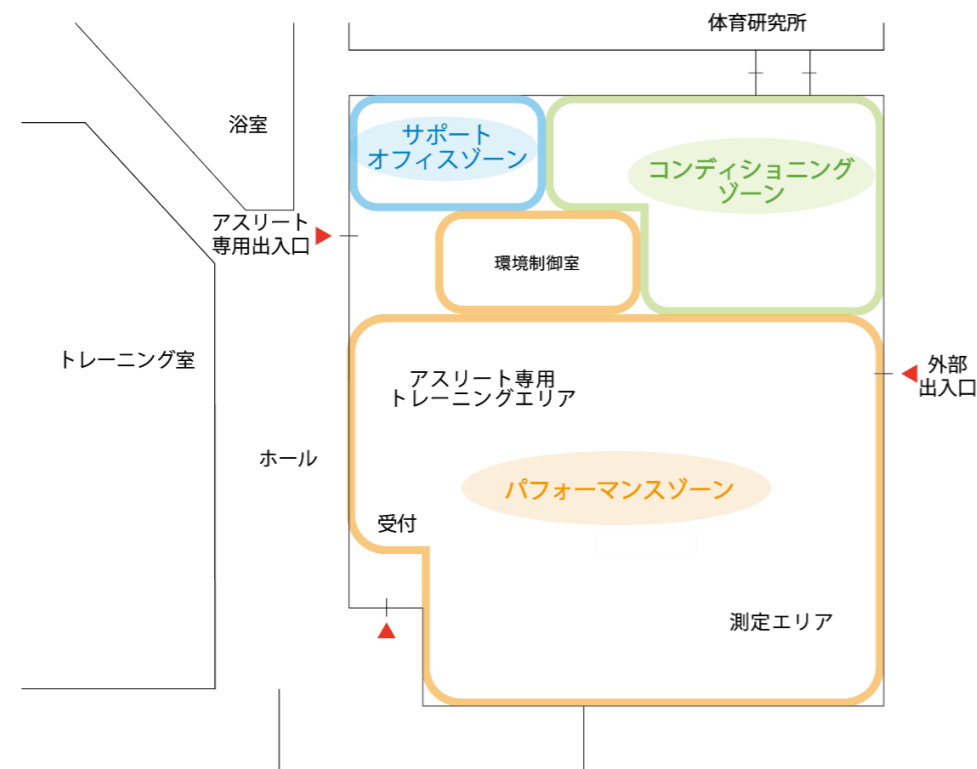
・ アスリート専用機能の整備

アスリートの利用動線を確保し、高度な測定・トレーニングを一体的に行う空間を創出するため、アスリートコア内にアスリート専用トレーニングエリアを整備する。アスリート専用トレーニングエリアには、アスリートの専用出入口及び受付を設けること。また、高重量・衝撃に対応した床改修を行うこと。

・ リカバリー機能のコンディショニングゾーンを導入

アスリートコア内に「環境制御室（高地・人工気象等のシミュレーション空間）」を設置。

コンディショニングゾーンの一部に、疲労回復用の「酸素カプセル」の設置スペース、及び「交代浴設備」を整備。また、シャワールームや専用トイレの設置、更衣室の配置の見直しを行う。



アスリートコアのゾーニングのイメージ

④ エントランスホール

・ アスリートラウンジの設置

エントランスホール内を活用し、アスリート同士及び宿泊者同士の交流を促すラウンジを整備する。

・ エントランスホールの刷新

エントランスホールに情報発信機能を集約し、来館者のアイキャッチとなる「大型ビジョン」を設置する。

・ 老朽化対応

レストラン入口付近のエキスパンションジョイント金物を改修する。

2階 EV ホール天井の雨染み部分を改修する。

⑤ 厨房

・ アスリート向けの食事提供・栄養指導に対応するため、厨房の壁を一部撤去してオープンカウンター化し、厨房設備を含んだ改修を行う。また、調理・提供効率を高める動線計画とする。

⑥ 事務室

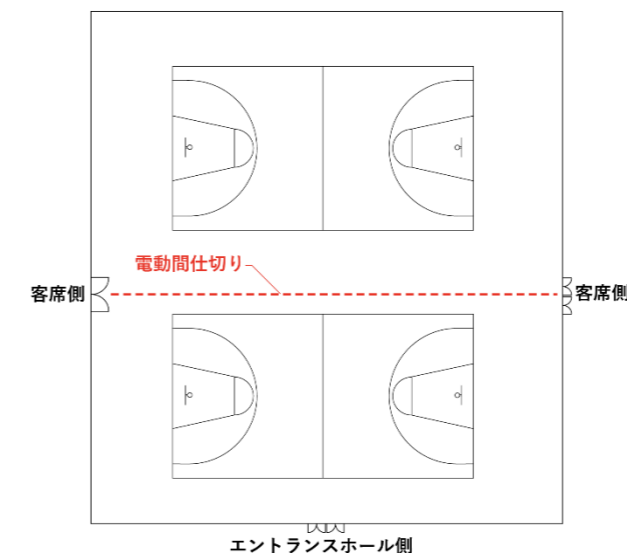
・ 事務室エリアの OA フロア化

拠点化に伴うスタッフ増員や業務拡張に対応するため、事務室エリアの拡張及びレイアウト変更を行う。事務室は利用しながらの工事となり、工事中は2階研修室へ事務室機能を移転する。

⑦ メインアリーナ

・ アリーナ機能の高度化

測定カメラ（4箇所+天井）、常設スクリーン（2箇所）及び電動間仕切り（競技間の視線やボールの交差を防ぐ電動間仕切り）設置する。



電動間仕切りの設置位置のイメージ



電動間仕切りのイメージ

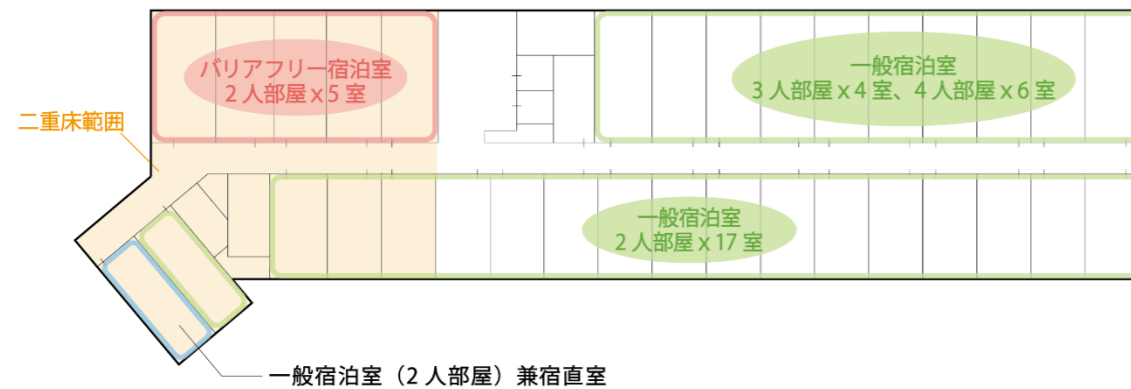
写真提供：コトブキシーティング株式会社

⑧ サブアリーナ

- ・アリーナ機能の高度化
測定カメラ（天井）、常設スクリーン（1箇所）の設置を行う。
- ・老朽化対応
床仕上、下地及び天井スピーカーを改修する。
サブアリーナ出入口付近の天井の雨染み部分を改修する。

⑨ 宿泊室

- ・海外アスリートに対応した宿泊室、バリアフリー宿泊室への改修
海外アスリート等の長期滞在に対応するため、プライバシーと居住性を高める改修を行う。バリアフリー宿泊室については、個別空調化を行い、独立したコンセント回路を3回路（通常用、非常用、照明用）設ける。その他の部屋については、コンセント回路を2回路（通常用、照明用）設ける。全室防音（遮音）化、独立したユニットシャワーの設置。また、宿泊室の1室は宿直室として、監視可能なLAN配線を整備する。
- ・宿泊室給湯システムの更新
朝の利用集中時においても、十分な温水が安定して供給可能な給湯設備・配管の更新又は容量見直しを行う。



宿泊室の室配置のイメージ

⑩ サイン

- ・施設全体：インクルーシブデザイン・多言語サインの整備
国内外の利用者が直感的に移動できるよう、館内サインを多言語対応へ更新する。
- ・ウェルカムサイン（自立タイプ）の設置

⑪ Wi-Fi

- ・Wi-Fi設備の機能改修を行う。

(4) 関係法令

① 建築基準法

- ・既存建物の防火区画、114条区画（防火上主要な間仕切）、避難経路の考え方は下図のとおりである。
改修にあたっては、防火区画の位置は既存のままとするが、3階宿泊室の間仕切り壁改修に伴い、宿泊室間の114条区画の位置は現行法規を満足する3室以下かつ100㎡以内ごとの区画に変更する。また、1階アスリートコア部分は共用部も含めて間仕切を変更するため、避難経路を見直す必要がある。

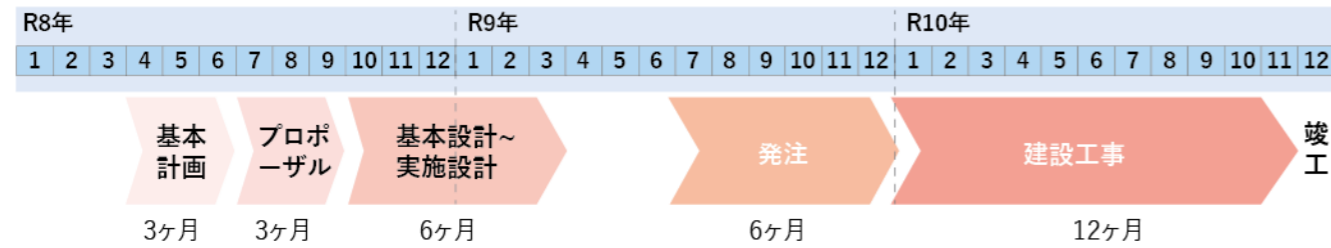
② 消防法

- ・改修後に避難経路となる部分については誘導灯を設置する。
- ・メインアリーナに電動間仕切りを設置する場合は、所管消防署と協議し、光電式の感知器を上方へ移設する必要がある。
- ・その他、改修により消防設備が変更となる部分は所管消防署と協議の上、設置する。



5 整備スケジュール

(1) 事業工程表



(2) 概略工事工程表

年		令和10年 (2028年)											
月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
①	屋外広場												
②	スロープ												
③	アスリートコア (旧体力測定室)												
④	エントランスホール												
⑤	厨房												
⑥	事務室												
⑦	メインアリーナ												
⑧	サブアリーナ												
⑨	宿泊室												

竣工検査

■ 仮設工事

■ 解体・撤去工事

■ 新設・復旧工事

6 概算工事費

単位：千円 (税込)

	建築工事	電気設備工事	機械設備工事	合計
営繕設備課対象工事 計	1,769,000	459,000	252,000	2,480,000
体育スポーツ健康課対象工事のうち Wi-fi工事	-	87,000	-	87,000
概算工事費 合計	1,769,000	546,000	252,000	2,567,000

※上記には体育スポーツ健康課対象工事の備品購入費は含まれない。